



2009年10月より、インディアナ州インディアナポリスにありす Indiana University に留学しています。

インディアナポリスは、アメリカ中西部にあるインディアナ州の州都で、市の人口は約80万人、周辺の都市を併せた都市圏の人口は約170万人です。しかし、高層ビルが建ち並び、建物が密集しているのはダウンタウンのみで、私の住んでいるインディアナポリス市郊外には、野生のシカ、ウサギ、リスが生息しており、初夏には自宅の庭でホタルも観察できる自然豊かな街です。緯度は日本の東北地方とほぼ同じで、夏は30°Cを超えますが日本ほど湿度は高くなく、冬は氷点下20°C近くまで下がりますが雪はあまり降りません。内陸の地方都市であり、雰囲気、気候ともに長野県によく似ており、とても過ごしやすい街です。

インディアナポリスにはアメリカのメジャースポーツのうち、コルツ (NFL) と、ペイサーズ (NBA) があります。特にコルツは過去5年間のうち、地区優勝4回、スーパーボウル出場2回/優勝1回と、非常に勢いのあるチームです。シーズンが始まると、街の至る所でコルツのキャップやウェアを着た人を見かけます。この冬もコルツがスーパーボウル出場を決めてから、子供の幼稚園や小学校ではコルツのウェアを着て登校する日があり、私が勤めている病院でもコルツのウェアを着ている職員が沢山いました。また、スーパーボウルは日曜日の夜に開催されるため、翌月曜日のインディアナポリス市内の公立学校では、スクールバスの運転手が早朝に出勤できないことを考慮して、事前に学校の始業時間が1時間遅れになりました。理由は、3年前にコルツがスーパーボウルに出場した際、

翌日、スクールバスの運転手が多数、体調不良を訴えて出勤せず、スクールバス運行に支障をきたしたためだそうです。まさに、街をあげてコルツを応援している感じです。インディアナポリスを紹介する上で、もう一つ欠かせないのが、インディ500です。インディ500は約100年の歴史がある自動車レースで、F1モナコGP、ル・マン24時間レースとならび、世界3大レースの一つに挙げられています。毎年5月末 (Memorial Day Weekend) に開催されますが、5月に入ると街角にはチェッカーフラッグがはためき、関連したイベントが多数開催され、街中がお祭りムードとなります。

次に、私の研究室について紹介します。私の所属は Indiana University School of Medicine, Department of Pathology and Laboratory Medicine ですが、実際、働いている研究室は、Indiana University-Purdue University Indianapolis のキャンパス内にある Richard L. Roudebush VA Medical Center の中にあります。ボスの Benson 教授 (MD)、Barbara 先生 (PhD)、Juris 先生 (PhD)、テクニシャンの方2人、秘書さん1人と私の7人だけの小さな研究室です。ボスの Benson 教授は世界的なアミロイド研究者で、自宅の庭に茶室を造るなど日本に対して好意的な先生です。現在私は、AA アミロイドを作ることができる細胞培養システムを用いて、関節リウマチなど炎症性疾患に合併する反応性 AA アミロイドーシスの発症機序を調べています。英語力および研究経験不足のため苦労が絶えませんが、充実した研究生活を送っています。このような私を温かく迎え入れ、丁寧に指導して下さいる研究室の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。最先端の研究をすることは日本にいても可能だと思いますが、こちらに来て、研究に専念できるとともに、異国の文化に触れ見聞を広めることができ、とても有意義な留学生活となっています。

最後になりましたが、このような恵まれた留学の機会を与えて下さった池田修一教授および信州大学医学部第3内科の皆様へ深く感謝申し上げます。また、留学にあたり信州大学医学部附属病院より留学支援を賜り、本当に助かりました。紙面を借り、お礼申し上げます。

(2010年8月)

(信州大学医学部内科学第3講座所属)